

第2回加西市立学校給食センター運営方式検討委員会

日 時	令和7年8月27日（水） 18:00～19:15
場 所	加西市役所 6階会議室
出席者	学識経験者：森井委員（兵教大）、遠藤委員（栄養教諭） 保護者代表：大塚委員（小学校PTA） 学校関係者：岩崎委員（泉中）、大道委員（泉小）
事務局	教育長、伊藤部長、松本課長、繁田食育専門員、鈴木北部学校給食センター所長、坂江南部学校給食センター所長
内容： 1. 学校給食アンケート結果について ○ 給食の量について、アンケートで「給食の量が多い」と回答が一部出ているが、学校では「おかわり」する児童も含めて現状ではどうか →基本的に小学校では、子どもの食べられる量に応じて配食している。しかし、中学校では給食の時間が40分ほどしかないため、すべての生徒に平均して配食している。 →ご飯をおかわりする児童はいる。 →年に1度学校に問い合わせた残す量の多い学年は、配食時に少し減らしている。 →女子は多いと感じるかもしれないので、少し減らして均等に配食している。 ○ 配食時に量の差をつけられないか。 →中学校では喫食時間が短い。ただし、男子はおかわりしてよく食べている。 →中学校では、男子はおかずが少ないと思っている。 →人気のあるおかずが残ったら、おかわりの取り合いになっている。 →小学校では、配食時に量を減らすなど対応している。 →中学校は、12:25から喫食開始で、13:05頃に回収に来るので、片付けを考慮して、喫食しないといけないため、量に対する対応が難しい。 ○ 喫食時間を確保するため、回収時間を10分ほど遅らせることはできないか。 →中学校は次の授業の開始時間（13:25）を踏まえれば、遅らせると対応が難しい。 →食缶等の回収時間は、昔から現状のままである。 →アンケート内にある「給食を残す理由」で「食べる時間が短いから」が2割ぐらい出ているので、喫食時間確保の検討が必要であると思う。しかし、5時間目があるのでずらすのは難しい。	

2. 業務委託について

- 現在、委託業務を実施している、西脇市、多可町の給食センター数は。
→それぞれ一つのセンターで運用している。
- 調理業務を部分委託する場合の具体的な内容は。
→まだ何も考えていないが、1センターのみなどができると思う。しかし、それでは委託料は減らない。
- 調理業務委託料を踏まえて、全面・部分業務と分けた業務委託を考えているか。
→考察していく。
- 調理業務委託料で人件費を軽減するため、「センター調理員の配置例」に示す、委託後の調理員以外の業務責任者などの4名の役職を減らすことは可能か。
→西脇市の仕様では調理員数の中で責任者等は兼務できるので、同様に工夫はできると考える。
- 西脇市の委託業者調理員の運用は、現状どのようにしているのか。
→西脇市では、調理ごとに責任者を設置して、その責任者は正職であり、概ね年間を通じて同じ仕事に従事している。それぞれに差はあるけれど、慣れるまで徹底している。そして調理員は各調理工程をそれぞれ固定して運用している。
→加西市は、調理員は横並びで各調理工程を持ち回りで運用している。
→西脇市は、アレルギー食の担当の職員がおり、毎食給食センターでアレルギーがある児童生徒でも食べられるかどうか、代替食があるかどうかなどを学級や本人に知らせるシステムにしている。
→加西市では、卵に関してアレルギー対応している。乳製品は使用していない。卵を使用する献立はアレルギー対象者を新入生など含めて確実に把握するため、献立に卵を使用する開始時期を6～7月からとし、学期ごと概ね1～2回卵を使用した給食を提供している。
- 調理員は募集したら、すぐに採用できているのか。
→直近の採用では3か月かかった。
- 調理員は会計年度任用職員として募集しているのか。
→そのとおり。
- 正職員は採用できないのか。採用できないのであれば、それを明確に示して考える必要がある。その上で、業務委託を進めていく必要があると思われる。また、現状の会計年度任用職員の待遇では募集難では。
→以前から市の方針として、調理員の正規職員は募集しないこととなっている。
そのため、募集は会計年度任用職員を募集している。
→市民目線で問題提議していただき、多角に考察していく。
- 西脇市が業務委託に至った経緯は。

→委託前は新たに正規職員として調理員を採用していなかった。そのため、栄養教諭に業務負担が増し、その改善を図るべく業務委託に進んだ。

○「近隣の調理業務委託料（令和7年度当初予算）」で業務委託する場合、現予算から1.5～2倍の予算見積としているが、予算削減のため、現在2つのセンターでの運用を1つにできないか。

→北部・南部はそれぞれ2,000食が処理能力のキャパで、現在2センターで3,300食を調理している。1つでは3,300食を作ることができない。

○業務委託する事で、1.5～2倍の予算がかかるのであれば、市民の理解を得ることができないのでは。

→西脇市は業務委託により、コストが下がった。

○今すでに60歳以上が10人、65歳以上が4人いると、いつ辞めるといふことがあるかもしれない。しかし、調理員が集まらなると給食センターは運営できない。多いお金を使ってでも給食センターを維持して、給食を守らなといけな。そのため、保護者が納得できるのであれば、給食有償化も一つの案と考える。保護者として、自分の食べたものを払うのは当たり前と考える。

○現在北部、南部給食センター両方で、調理員合計38名中、60歳以上が10名いるが、退職の話は出ているのか。

→現在のところ、話は出ていない。

○調理員の募集はどのようにしているのか。

→市のホームページ及びハローワークで募集をしている。また、それでも応募がない場合は、広告を活用している。

→募集難で給食調理に影響が出て、運営が困難になることが予想されるのであれば、業務委託の必要性が生じてくる

○現在の調理員の人員数は3,300食の給食調理に適任か。

→適任である。

○民間業者の調理員と市で募集している会計年度任用職員調理員との待遇の差が乖離しているのも募集難につながっているのでは。

→民間が1,600円などであれば、市の募集時の時給1,165円～1,205円との差が大きく、みんなが民間を選ぶのはわかる。

→委託業務を進める場合においても、正規職員を採用してこなかつた経緯、現行の採用で待遇改善の可否など、それぞれ確認し、第3回運営方式検討委員会で案を示したいと思う。

○ 次回の会議は令和7年10月8日（水）18：30～